

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0972300578		
法人名	社会福祉法人栃の木会		
事業所名	グループホームうらら(翠の棟)		
所在地	下都賀郡壬生町北小林812		
自己評価作成日	平成22年12月10日	評価結果市町村受理日	平成23年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do">http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成23年1月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者一人ひとりの心身の状態を把握し、その方に合った自立支援を行い、出来る力と今を大切にしている。ご家族との情報交換を密に行い、自立支援に伴うリスクについての理解と協力も得ている。</li> <li>・より深く接遇を学び、ご利用者の尊厳を念頭に置いた良質なサービスに努めている。</li> <li>・各種ボランティアを通して地域との繋がりを強化している。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当ホームは町北部の周辺に雑木林や田園地帯が広がる自然豊かな環境に位置する3ユニットのホームである。大学病院や同法人の介護老人保健施設や特別養護老人ホームが隣接しており、災害時等における連携が図られている。ホームでは入居者に対する接遇面に力を入れており、入居者がそれぞれに役割をもって家庭的な環境の下で生活できるように、職員全員が入居者ひとりひとりの思いに寄ったケアを心がけている。また、入居者や家族の思いや要望にもできるかぎり応えていく支援にも取り組んでおり、どうしたら実現できるかを日々検討している。地域との交流にも力を入れており、地域活動への参加や地域で活動している様々なボランティアも受入れており、入居者との交流や生きがい支援に活かされている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念は介護員室に貼り、朝の申し送り時に唱和、共有し日々努力している。ホームの理念はご利用者・ご家族・来棟の方々にも見えるようホールに貼り、ご利用者と共に唱和し理念に沿った様創意工夫を心掛けている。	法人理念を基にして、職員と入居者との話し合いにより、支援や接遇方針を取り入れたホーム独自の理念をつくりあげている。理念は日々の唱和等により職員に浸透されており、入居者への言葉かけや支援態度、回想法等に取り入れながら理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	社会福祉協議会傾聴ボランティア主催の“こらっせ”に参加し、地域の方々とお茶を飲みながら話しをし、交流している。又、ボランティアの方々ともコミュニケーションを図っている。町内の工房に通い交流をしている。工房の方々も来棟している。	ホーム周辺は田畑や雑木林が広がり、地域住民が少ない環境にあるが、近隣幼稚園児や小学生、多彩なボランティア等が来所し、交流が図られている。また、町内で開催されている行事等にも積極的に参加する等、地域との相互交流にも取り組んでいる。自治会には法人で加入している。	立地的な要因もあると思われるが、地域密着型サービス事業所として、近隣住民が気兼ねなくホームに来所し、入居者との交流が図れるような取り組みを検討していく事に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	うらら広報紙を地域の医院に配布し、町内の方に見て頂いたり、運営推進会議にボランティアの方・商店の方々にも参加して頂き、情報交換し理解を得る様心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の審議事項を解りやすくまとめ報告している。会議での意見・要望等を含め、議事録を作成。全職員に回覧し周知。参考にして、改善しサービス向上に努めている。	運営推進会議は2か月毎に家族、民生委員、地域のボランティア、地域包括支援センター、町職員等の参加により開催している。会議ではホームの利用状況や行事等の報告の他、参加者との活発な意見交換や助言があり、日々のケアの向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ケアサービスでの疑問に思った事や、分からないことは相談し、回答や助言を頂いている。又、町役場担当職員からも連絡事項等もTELでの連絡を頂いている。	役場の担当職員には運営推進会議の参加時等に入居者の暮らしぶりや支援状況等を把握してもらっている他、日頃から電話等で情報交換や様々な相談に乗ってもらおう等、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	十分理解をし、声掛け・見守りにて対応している。入居前に無断外出をしてしまうご利用者様には入居後1ヵ月程は自室の窓の施錠開閉を職員管理にさせて頂き、様子を見ることもある。	朝の申し送りや職員会議等で身体拘束に該当する行為や防止策への共通認識を深めており、職員は入居者へ対する見守りや言葉かけにより、身体拘束のない支援に取り組んでいる。玄関への施錠は行われていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	接遇改善委員会を中心に話し合いを行い虐待防止に努め、明るいホーム作りを目指している。又、平成23年1月に虐待防止に関する研修会に参加申し込みをしている。		

グループホームうらら(翠の棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修・勉強会に参加して内部研修を開催し、知識習得に努めている。身内関係が希薄な方などが利用し、安心して生活が送れる様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には納得行くまで何度でもホームに来棟して頂き、相談・話し合いをしている。退居時も、退居指導を行い相談・話し合いを持っている。入・退居時は契約書・重要事項説明書でも説明し、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者集会やご家族懇談会等、運営推進会議・うらら新聞にて報告している。又、ご利用者集会アンケート・ご家族からの意見・要望等は全職員でカンファレンスを開催し、改善している。	ホームでは入居者及び家族からの意見や要望の把握に積極的に取り組んでおり、利用者集会、家族懇談会、アンケート等で意見や要望の把握に努めている。出された意見や要望等は職員で協議し、出来る限り要望に応えていく方針で取り組んでおり、サービスの質の確保や向上につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	幹部会議や管理者会議を始めとした会議で、職員に運営に関する意見(アンケート方式等)・提案等を召集し、参考にして反映している。	職員は管理者やユニットリーダーに気軽に提案や意見を表すことができ、管理者は日ごろから職員の声に耳を傾け、コミュニケーションを図るよう心がける等、職員が働きやすい環境づくりや改善等に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの勤務状況(努力・実績等)管理シートにチェック整理して、賞与・給与に反映している。又、管理シートの個人の達成度に向けても上司とカンファレンスを行い、向上心を持って働けるよう心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には、新人用マニュアル(法人・ホーム)に沿って対応。年間の法人・ホーム内部研修は出来るだけ受けるよう勧めている。外部研修も職員段階に応じて、受講できるような機会を与えている。又、各自資格取得の講習・研修も同様である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研修で来棟された施設との交流を通し、情報を得たりサービスの質の向上に努めている。又、1月には他グループホームへの見学を実施する予定。		

グループホームうらら(翠の棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が話しやすい雰囲気作りをして、傾聴・意思の確認をしている。又、日帰り体験を通し、食事やレクリエーションに参加し、安心の確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	落ち着いた空間で、十分に時間をかけ、話し合いを持っている。ケアプラン(暫定・第1回)作成時に要望希望等の意見を傾聴し不安をなくす様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族から、どのような支援を希望しているのか確認すると共に、日常生活状況の中からその方に合ったサービス利用の対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「家族である」「共に生きる」をモットーに毎日の生活の中から、学び支え合う関係を築いている。昔の知恵等を教わりながら食事作り、裁縫など一緒に行い楽しく生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	懇談会やご家族を招いての行事・面会を通し、支援の希望・ご利用者の状況報告を行い、理解・協力を頂き、共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	随時面会の対応。併設施設デイサービスご利用者との面会や馴染みの美容室へかかったり趣味の工房へ行く等関係継続の支援を行っている。	本人や家族から今までの生活歴や趣味趣向等の情報を把握し、地域での習い事への参加や馴染みの美容室や友人宅への訪問等、家族からの協力も得ながら、本人の馴染みの人や場所との関係が継続出来るよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中から、ご利用者一人ひとりの性格・ご利用者同士の関係を把握し、孤立することのない様支援している。又、ご利用者同士の助け合いは、危険を伴わない限り見守り支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されご本人が亡くなられても、ご家族がうららでの思い出を大切に、講話や絵手紙の指導に來られ良い関係を継続している。又、お身内の相談話にも來られている。		

グループホームうらら(翠の棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のシートを使い、思いや希望を日常生活の中から聞き取り、把握に努めている。又、アンケートやご利用者集会で行ってみたい場所やしたい事・して欲しい事を話し合い、ニーズを掘り下げ、ホームで対応困難な事はご家族の協力を得ている。	入居者の言葉にしやすい思いを日々の行動や表情から汲み取り把握していると共に、回想法やセンター方式、アンケート及び家族からの情報等も活用しながら、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時基本情報による生活歴・生活状況の把握やセンター方式のシートをご家族に持ち帰って頂き、出来るだけ記入頂ける様協力の依頼をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自立支援を基本として、ご利用者の言葉に耳を傾け、チーム全員が気づきを共有し、心身状態を把握している。又、レクリエーションを活かし、回想法・計算ドリル等を取り入れ、ご本人の持っている力の発見に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の要望に対し、チーム関係者を交えて、ケアについて意見を出し合い、介護計画を作成している。又、状態変化時はカンファレンスを実施し、介護計画の見直しを行っている。	本人や家族の要望を確認し、アセスメントによりADL等を把握したうえで、本人や家族も含めたサービス担当者会議において、介護計画を作成している。介護計画は3か月毎にモニタリングを行い、本人の状態や援助目標の達成度を確認しながら、現状に合わせた見直しに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づくケアの実践、気づき、対応を記録すると共に、チーム内での情報の共有と統一介護の実践を行っている。又、連絡ノートに記載し活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の要望に応じて買い物・お墓参り・ドライブ・ファミリーレストランでのお茶飲み等柔軟な対応、支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社協・傾聴・書道他各種ボランティアによるクラブ活動の指導、移動美容室、幼稚園の運動会、お遊戯会招待や消防訓練の協力、地域交番への訪問等協力を頂いている。又、清掃ボランティアの方々とご利用者が一緒に棟内・庭内の清掃を行っている。		

グループホームうらら(翠の棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、事業所の協力医療機関の説明はするが、自由に選択して頂いている。かかりつけ医を変更する際は紹介状、事業所より「Drへの報告書」を持参して頂き、適切な医療が受けられるよう支援している。	本人及び家族が希望するかかりつけ医での受診を支援しているが、ホーム近隣にある協力医にかかりつけ医を変更する入居者も多い。通院の付添いは原則として家族に付添いをお願いしており、入居者の状態や受診結果、服薬類の情報も家族と連携を密にして情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	今年度、訪問介護を利用された方はいないが、隣接施設の看護師に相談したり、指導を仰いでいる。薬については処方薬局にも相談、指示を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時より週に1～2回経過をご家族より伺ったり、病院に行き、治療の方向性、状態の確認をしている。又、退院時には退院指導や退院後の生活上の注意事項等を確認させて頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にターミナルケアを行っていない事、また自立支援が困難になってきたり、医療処置が必要になった場合、ホームでの支援は難しいことを説明し、その様な状態になって来た場合、サービス担当者会議を開催、ご家族や主治医に報告、相談し、適切な対応をとっている。	家族とは重度化した場合の対応を早い段階から話し合い、本人や家族の希望によっては重度化した場合でも、できるかぎりホームでの支援に努めている。医療行為等が増えてきた場合には、医療機関や同法人の特養や老健等に移る場合が多い状況にある。	本人や家族の要望を踏まえ、重度化や終末期にどこまでホームとして援助すべきなのか、出来るのか等、今後もホーム内での協議や主治医等からの助言も得ながら、ホームの方針や支援体制づくりの検討に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成し定位置に設置、全職員が熟知している。夜間緊急対応職員を決め勤務表に記している。無断外出時に備えた利用者リストを作成し、交番、しもつけ荘、みなと荘へ配布している。又、緊急時の対応についての内部研修も開催し、全職員が対応出来る様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接施設との定期合同避難訓練及び年1～2回うらら独自の夜間想定非難訓練を内部研修の一貫として実施。又、常に役割分担とマニュアルを目の届く所定の場所に置いている。防災頭巾も作りかぶる様に訓練している。	隣接する事業所と合同での消防訓練やホーム独自でも夜間時等を想定した避難訓練等を実施している。災害時の対応マニュアルを作成し、職員への周知に努めている他、火元になりうるボイラーは定期的にチェックし安全に管理している。スプリンクラーは昨年度に設置を完了している。	併設事業所や3ユニット間の連携により、災害対策に取り組んでいるが、職員一人ひとりが様々な場合を想定し、災害発生時にまず何をするのかを確認し、手順を把握していく取組みに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇改善員にて内部研修を実施。言葉使い等職員間でも注意し改善している。毎月接遇目標を掲げ、朝礼時に唱和实施する事で職員の意識向上を図っている。又、記録等個人情報ものは外部から見えないところに保管している。	職員は年長者である入居者には常に敬意と尊厳をもって接しており、支援する側・される側にならないよう支援態度や、言葉遣いには特に気をつけている。個人情報記載された書類等は、事務室内で適切に管理されている。	

グループホームうらら(翠の棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人のニーズを重視し、何を望んでいるのか傾聴すると共に話しやすい雰囲気を作っている。自分で決断できない時はご家族に話を伺い、片寄った見方にならない様にしている。一人ひとりを観察し、本人らしく暮らして頂けるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴等おおよその時間は決まっているが、その日々の状態や希望に応じ、柔軟に対応している。レクリエーションやリハビリ、行事についても同様、その方の希望を尊重し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧道具、マニキュアが揃えてあり、常時声掛け実施している。又、行事や外出の時には、衣類のコーディネートの相談に応じている。更に、理容・美容の依頼時にはご家族に連絡、又、ご家族依頼時には移動美容室も使用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	屋外昼食会の実施や盛り付け・器の工夫をしている。10月より外注(タイハイ宅配)に発注。今までにない献立に喜ばれている。ご利用者と職員と一緒に準備・片付けを行っている。嫌いなメニューの時は、食べられる食材に代え、提供している。	献立の作成と食材の手配は外注業者への委託に変更され、調理は各ユニットのキッチンで行われており、入居者は職員と共に食事の準備や後片付けを行い、食事は職員も入居者と同じ物を一緒に会話を楽しみながら食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外注(タイハイ宅配)の栄養価が計算された献立にて確保している。一人ひとりの咀嚼状態に応じ、お粥、刻み食、ミキサー食等工夫を行っている。又、嚥下困難時にはトロミをつけ召し上がって頂いている。食後は摂取量を確認し、個人別のチェック表に記入している。水分量も同様にしてている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕食後に声掛け・見守りにて口腔ケアを実施している。義歯のご利用者のポリドント洗浄も行っている。口臭の気になるご利用者にはマウスウォッシュも行っている。又、一週間に一度、歯ブラシ、コップ、義歯ポットの洗浄消毒を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛け、案内、見守りを実施している。又、自室のポータブルトイレを設置する事で転倒防止や自立を促している。清潔保持のため尿もれ時には清拭を実施。皮膚観察を行っている。尿もれが目立つ場合、カンファレンスを行い、ご家族に相談し改善に努めている。	入居者の排泄パターンやタイミングを把握し、本人の自尊心に配慮しながら耳元での声掛けやさりげない誘導により、トイレでの自立した排泄支援に取り組んでいる。夜間時は本人の希望や状況により、パッドやリハビリパンツ、ポータブルトイレでの支援も行っている。	



グループホームうらら(翠の棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを行っている。便秘のご利用者には、腹部マッサージをしたり、暖めたり、運動を行っている。ひどいご利用者には医者へ報告・相談している。10時には個々に合わせた牛乳のお持ち成しを行う。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者の希望日、時間を聞く。入浴前には必ず入浴日であることを伝え、一緒に洋服を選んだり、ご利用者同士で入浴順を決めたりする。ご家族がご利用者の好きな石鹸やシャンプーを準備することもある。	入浴は本人の希望等を確認しながら、概ね1日置きで昼食後から夕方の時間帯を入浴時間として支援している。入浴に拒否傾向がある入居者には、タイミングを見計らいながら声かけを工夫して入浴を促している。入浴中はリラックス出来る時間であり、本音が出ることも多い事から職員は会話を大切に支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝る前に「どうしてここに泊まるのか」「一緒に泊まる人がいるのか」など不安になるご利用者もいる。安心して休んで頂けるよう話を聞いたり、声掛けを行う。ベッドは常にきれいにしている。季節に合わせて、空調機を調節したり、個々の慣れ親しんだ寝具や安眠できる様湯タンポ、電気毛布等使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診・薬マニュアルを作成し、薬の説明書、目的、用量、用法がすぐに確認できるよう設置している。飲み合わせや分からない事は電話で相談している。ご利用者によっては、どんな薬を内服しているか、処方箋をコピーし、一緒に内服確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗い、食器拭き、収納、テーブル拭き、洗濯物たたみなど、各人できる範囲のお手伝いをして頂いている。お話し上手の方はレクリエーションを盛り上げて下さったり、字が上手な方には書道を行って頂いている。また、作品は作品集にまとめたり、飾ったりして見て楽しめるようにしている。又、天気の良い日には散歩や屋外での食事会、お茶会を楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日には観音様をお参りしたり、散歩をし、気分転換を行っている。入居前に通っていた工房にご家族や友人と出かけられ、織物を続けて楽しまれているご利用者もいる。年2回ご利用者集会にてアンケートを取り、希望が叶えられる様努めている。(温泉旅行・公園・お墓参り・映画鑑賞等)	近隣への散歩や買い物、馴染みの場所や外食等に職員や家族等と出かけている。外出が好きな入居者が多いことから、アンケートで希望を確認し、家族も交えた宿泊旅行の実施や季節毎の外出を企画する等、外出の支援に取り組んでいる。	



グループホームうらら(翠の棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からの預かり金を必要時(行事・外出時)に渡している。個人で所有し、買い物時外食時など支払っているご利用者もいる。又お孫さんへの入学祝いやお小遣い等として渡しているご利用者もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時の電話の対応や手紙の代筆、投函を行っている。又年末には年賀状、誕生会にはご利用者からご家族へ感謝の手紙を書きお渡ししている。又、携帯電話を持ちご家族との連絡を円滑にしたり、ご家族来棟時ご利用者へのメッセージノートに繋がりを深めているご利用者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関、ホール、廊下等には季節に合った手工芸品、写真、絵画等を飾っている。季節の花や観葉植物を食堂、ホール、テーブルに置き、ご利用者に季節感を味わって頂いている。台所・トイレの窓にはカフェカーテンがしてある。食堂の椅子・ホールのソファも棟のイメージカラーの緑で統一してある。	共用空間には木材が多用され、窓からはやさしい日差しが差込み、照明も温かみのあるものが用いられている。また、手工芸品や季節感を活かした飾付けが行われ、落ち着いた空間がつくられており、入居者がリビングやソファ等で思い思いに過ごす姿が見られた。玄関には本人の了解の下で表札を付け、自分の住んでいる家だという意識を高めてもらっている。	訪問時が真冬であったことも要因となっていると思われるが、換気のために窓が開放され室内間の温度差が激しい場所もあったことから、室内の温度を一定に保つ取り組みに期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファが設置してあるが、ご家族が持参された椅子もある。特定の席が決まっているご利用者以外は自由に座り、談笑やTV、お茶を楽しんでいる。足裏マッサージスペース、マッサージ器が設置されており、思い思いに使用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活用品、寝具などはご本人が使用していた物、ご家族が使いやすいと考え選んできた物を使用している。整理、整頓と共にご本人が使いやすいところに物を設置し、居心地よく生活できる部屋作りを行っている。又、ご主人のお位牌や写真を持って来て毎日、お茶、ご飯をお供えているご利用者もいる。	各居室は自分の家と捉え、入居前の環境と違和感がないように、本人及び家族には使い慣れた家具や馴染みの品々の持参を促しており、ベッドや筆筒等の家具類や、仏壇や家族の写真等が持込まれ、個性的で居心地の良さそうな居室づくりがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は回廊式になっており、どのルートからでも職員カウンターに通じ、混乱のないよう誘導状況を作っている。自室が分からないご利用者には名前プレート以外に目印になる飾り付けをして分かるような工夫をしている。どうしても分からない場合、自室案内を行っている。又、自室で洗濯をし洗濯干しに掛け自分で行っているご利用者もいる。ホール、テーブルには各自のネームシートを貼り分かる様にしてある。		